

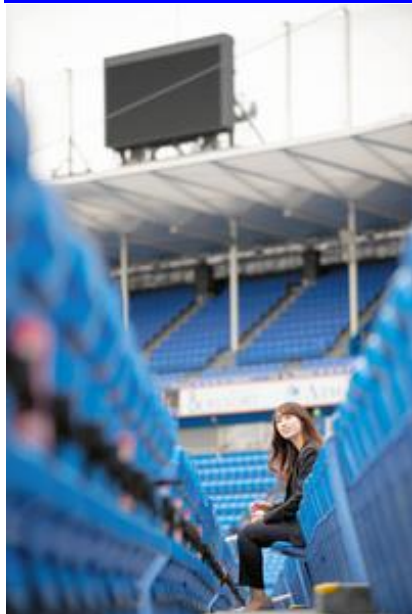
## 六大学史上初の女性主務 元慶大部員の日々

2022年1月6日

東京六大学野球で初の女性主務を務めた元慶大野球部の小林由佳さん=2021年12月14日午前、神宮球場  
いずれも横山輝撮影

屋根の上にある電光掲示板の下にサイレンがある

当時はこの赤いボタンを押してサイレンを鳴らしていた  
4年になるとベンチでスコアをつけていた



ウウウ〜〜……。

秋空にサイレンの音が響き渡る。

神宮球場で昨年10月にあった東京六大学野球の早慶戦。優勝を決めた慶大に歓喜の輪が広がるのを、**小林由佳さん(25)**は三塁側スタンドで見守った。

マウンド上で抱き合う4年生は、小林さんが4年生だったころの1年生だ。胸が熱くなる。試合終了を告げるたった5秒の音が、全力で駆け抜けた、あの日の記憶を呼び起こす。



2018年。慶大野球部マネジャーとして最上級生となった小林さんは、主務を務めていた。試合日程の調整やキャンプ運営、広報や取材対応など、裏方トップとして約160人の大所帯をまとめる大役だ。

90年以上に及ぶ東京六大学野球史上、**初の女性主務**でもあった。

高校まで女子校に通った。家族で毎月、東京ドームに行くほどの野球ファン。自身は演劇部だったが、高校野球部の友人の引退試合を見て感動し、大学進学後、迷わずマネジャーとして野球部へ入った。

2階席の屋根の上に設置されているサイレン。羽が回ると音が鳴る仕組みだ=神宮球場提供

### 主務候補になった私に、母の言葉が背中を押した

17年春、監督から「小林を来年の主務候補にしようと考えている」と言われた。伝統と責任の重さを感じた。ただ、全力で取り組み、自分の成長に賭けようと思った。母はこう言ってくれた。「置かれた場所で咲きなさい」

野球経験はゼロ。だから周りの声を聞いた。自分にできることを考え、誰よりも先に動こうとした。

選手のコンディションや対戦相手の分析は学生コーチと相談した上で、監督や助監督との話し合いに臨んだ。試合前のミーティングで、風向きや降水の可能性、まぶしくなりそうな時間を伝えた。

どれも、プレーに影響が及ぶ情報だ。

これまでマネジャーはグラウンドには降りないのが通例だった。どんなに朝が早くても、練習前のミーティングや清掃活動は選手とともに行動した。週7日、部活。いつしか、野球部を、野球部員である自分を誇れるようになった。



18年秋の早慶戦。先勝し、敗れ、迎えた3戦目。小林さんはいつものように三塁側ベンチでスコアをつけていた。4-3とリードして迎えた九回表。3季連続の優勝まであと一步で逆転を許し、負けた。

**初の女性主務、慶大野球部の小林由佳さん=2021年12月14日午前、神宮球場、横山輝撮影**



## 現役最後のサイレン、その時思ったことは

試合終了を告げる現役最後のサイレンが、鳴った。

選手はグラウンドで泣き崩れていた。だけど、涙は出なかった。「ここまでやって勝てないのかもしれない」。胸を占めたのは、選手への感謝だった。

スタンドで、ベンチで、グラウンドで、4年間で何度も聞いていたサイレン。身が引き締め、安堵し、気持ちの切り替えにもなった。現役最後は、これまで聞いた音とは違う、晴れやかな気持ちにしてくれた。

卒業の時、監督から「監督孝行ありがとう」と言われた。支え合った同期も言ってくれた。「こぼゆかが主務でよかった」

スポーツに関わる仕事がしたい。そんな思いで、広告会社に就職した。いま、社会人3年目。どんなことがあっても頑張ろうと思えるのは、仲間と過ごした4年間があるからだ。

時折、目を閉じる。ベンチからの景色、球場の匂い、応援の声。そして、サイレンの音。今でも背筋がのびる。

ビジネスの場でも野球に携わることができたら。いつかまた、神宮に戻ってきたい。いつでも原点に立ち返ることができる、大事な場所だ。  
(野田枝里子)



# 「空気になれ」慶大4年

## 東京六大学野球に初の女性主務

2018年4月14日

**慶大の得点に喜ぶ主務の小林由佳さん(中央)**

東京六大学野球の春季リーグ戦が14日、東京の神宮球場で開幕した。開幕試合で戦った慶大のベンチには、今チームから主務となった小林由佳さん(4年、慶応女子)がスコアをつける姿があった。東京六大学野球連盟によると、1925年(大正14年)から始まるリーグで初めての女性主務だという。小林さんは小、中学時代は器械体操に励み、高校では演劇部だった。ただ、弟が野球をしていたこともあり、野球部のマネジャーに興味を持っていた。さらに、高校3年夏に慶応高の試合を観戦。同い年の選手が涙している姿に「ベンチを笑顔にしたい」と思い、慶大でマネジャーになることを決意した。

開幕試合は15-0で快勝した。「試合前は緊張していましたが、一つ勝ててほっとしました」と選手と同じ心境を語った。河合大樹主将(4年、関西学院)からは「空気になってくれ」と言われている。「一体になって、空気のようにないといけない存在という意味です」と小林さん。試合中は選手と一緒に声を出し、得点すれば笑顔を見せた。初めての女性主務として、「後輩の女性マネジャーのためにも良い道をつなげていきたい。私もリーグ戦を通して成長したい」と話した。

(黄地紋・林 莊祐)